



サンディエゴ州立大学英語研修プログラム

国際センター企画短期英語研修



実施日：平成30年2月25日～平成30年3月26日
実施場所：サンディエゴ州立大学（アメリカ合衆国・カリフォルニア州）

1. 概要

・概要

サンディエゴ州立大学英語研修プログラムは、群馬大学が主催するもので、ホームステイで現地に滞在しながらサンディエゴ州立大学(SDSU)の授業を受講できるプログラムである。今年度は2018年2月25日～3月26日の期間で学部生6名、院生2名の計8名が参加した。

サンディエゴはカリフォルニア州南部に位置し太平洋とメキシコに接する。人口においてはカリフォルニア州でロサンゼルスに次ぐ第2位の都市で、温暖な気候と治安の良さから多くの観光客や留学生が集まる。

・実施経緯、事前準備

プログラムに参加するにあたり、以下のようなスケジュールで準備を行った。

表1 留学開始までのスケジュール

10～11月	参加申し込み(群馬大学へ)
11月末	オリエンテーション①
12月上旬	オリエンテーション②(参加申込(SDSUへ)) 危機管理オリエンテーション パスポート申請、参加費振込
1月上旬	ビザ申請
1月中～下旬	ビザ面接 オリエンテーション③(最終確認)
2月25日～	留学開始

・目的

私の参加目的は、スピーキングを中心とした英語力の向上と異文化交流を通じて自らの見聞を広めることであった。英語に慣れるだけでなくコミュニケーション力そのものを磨くためには、英語を使わざるを得ない環境に身を置き積極的に外国人と会話をする必要がある。そのような機会を提供する十分なプログラムだと考え、参加を決意した。また、私は中学生の頃にアメリカへ研修旅行に行ったことがあり、その頃からいつかもう一度アメリカへ行きたいと思っていたのでサンディエゴでのプログラムを選んだ。

2. 内容

・授業内容

授業は大学構内のAmerican Language Institute (ALI) という語学学校で行った。学生の半数以上が日本人で、サウジアラビア、韓国などアジアからの留学生が多く、年齢は大学生から50代の社会人までと幅広かった。レベルごとに15人程度のクラスに分かれるので発言機会が多く、意欲的な参加が求められる。どの科目でもペアワークが多く、自分の意見を伝える力と相手の意図を理解する力が自然と身につく。また、通常コースとビジネスコースを選ぶことができたり、難易度が合わなければクラスを変えることもできる。このプログラムでは、通常2～5月で1 sessionとして実施しているALIの授業の中、群馬大学からの参加者は最初の1ヶ月を受講して帰国することになっている。

表2 授業スケジュール

	time	class	授業内容
Monday/ Wednesday	9:00-10:50	Oral Communication	ニュース動画を見て内容について数人で議論する。
	11:00-12:15	Grammar	前置詞や関係代名詞、接続詞の使い方を学ぶ。
	1:30-2:45	Reading	小説を読み、議論をして内容の理解を深める。
Tuesday/ Thursday	9:00-10:50	Oral Communication	スラングやネイティブが使う表現を学ぶ。
	11:00-12:15	Writing	エッセイやビジネスメールを書いて添削を受ける。
	1:30-2:45	Listening	ドラマなどの動画を見ながら聞き取りの練習をする。
Friday	9:30-10:45	Elective Class 1	カフェや病院といった学外の施設で使う表現を学ぶ。
	11:00-12:15	Elective Class 2	アメリカのポップミュージックから詩的表現を学ぶ。



図1 Oral Communicationのクラスメイト

・課外活動

金曜日の午後から日曜日までは授業がないため、観光や他の留学生との交流に時間を費やした。

サンディエゴの交通機関：サンディエゴ市内はマンスリーパスでバスやトロリーが乗り放題で、大学内に駅があるので交通の便が良かった。またアメリカではUberやLift(一般人が運転するタクシーのようなシステム)が普及していて、利用登録をすれば車がなくてもどこへでも簡単に向かうことができた。

ロサンゼルス観光：バスで2時間ほどの距離にあるLAへ2泊3日の旅行もした。ハリウッドやディズニーランド、アメリカ最大規模の日本人街であるリトルトーキョーを観光しサンディエゴとは違う街の雰囲気を楽しむことができた。今回は自力でホテルやバスを予約して向かったが、大学が紹介するツアーを利用することもできる。

その他の活動：近くのカフェやショッピングモール、大学内のボウリング場で留学生と交流することもあった。留学生向けのサークルのパーティーや大学主催のイベントも多いので休日也十分に満喫することができた。

・ホームステイ生活

ホームステイ先での生活は滞在する家庭によって全く異なるものだった。私の滞在先は大学からバスで10分ほどの距離にある一軒家で60代の女性と中国人留学生がいる家庭だった。手料理の朝食と夕食が毎日用意され、昼食として弁当が用意されることもあったため食費を節約できた。家事もほとんどしていただき部屋やバスルームも清潔で不自由な生活を送ることができた。しかし大学から遠い、家族との会話の時間があまりない、食事は自分で用意しているという学生も多くいるなど差があった。

3. 結果

・成果

私がこのプログラムを通じて得た一番大切なものは友達である。他大学からの日本人留学生を含め短期間で多くの人と出会い、他愛ない話から勉強や将来の話まで語り合える仲間ができた。外国人の友人とは時に意味が通じないこともあったが、相手が理解してくれた時の嬉しさは自信につながり、英語学習のモチベーションにもなった。半年から1年間滞りする留学生がほとんどである中で先に帰国するのは本当に名残惜しかったが、空港まで手紙を持って見送りに来てくれる友達もでき、悔いのない1ヶ月を過ごすことができたと感じた。留学をしたことでもの見方や考え方が変化し、自分自身と向き合うことができた。留学は時間とお金に余裕のある大学生のうちにすべきことだと感じた。

・今後の展望

これからの学生生活で今回培ったコミュニケーション力を無駄にしないように様々な活動に積極的に携わったり、英語力の維持のために学内のEnglish Caféなどの機会を有効に活用していきたい。また、この留学を通して得た人脈を大切にしていきたい。いつか台湾や韓国へ旅行する時には彼らの元を訪ねようと思う。

・おわりに

今回のプログラムを企画して下さった高平和生さん、福島健太さんをはじめとする国際課の皆様、国際センターの先生方、ポスター発表についてご指導いただいた社会情報学部の末松美知子先生にこの場を借りて感謝の意を表します。誠にありがとうございました。



図2 大学構内の様子